

NEC

(2017/09/15)

EXPRESSBUILDER

EXPRESSBUILDER	1
1. 概要	1
2. バージョン 8 へのバージョンアップ.....	1
3. EXPRESSBUILDER の起動.....	1
4. FIRST TIME SET UP WIZARD	2
5. EXPRESSBUILDER メニュー画面	4
6. OS インストール例.....	5
7. メンテナンスの実行.....	7
8. バージョン 7 とのおもな差分.....	8
付録. EXPRESSBUILDER の使用例(バージョン 7).....	9

EXPRESSBUILDER

1. 概要

「EXPRESSBUILDER」は、OS のインストールを支援するソフトウェアです。

EXPRESSBUILDER は、バージョンにより操作などが異なります。本書では、おもにバージョン 8 について説明しています。

本書で使用している画面イメージなどは、出荷時期、バージョンによって変わる可能性があります。

2. バージョン 8 へのバージョンアップ

2017 年 8 月末以降出荷の新モデルでは、従来のバージョン 7 に代えてバージョン 8 にバージョンアップしています（モデルによってはバージョンアップしていないものがあります）。

バージョン 8 は、新規のサーバープラットフォームに対応しており、サーバー内に標準で組み込まれているため POST から簡単に呼び出すことができます。

バージョン 8 では、いくつかの OS ドライバーが EXPRESSBUILDER に格納されていません。別途 Starter Pack を入手し、OS インストール後ドライバーを更新してください。

3. EXPRESSBUILDER の起動

EXPRESSBUILDER は、次の方法により起動します。

- 1 サーバーの電源を ON するか、<Ctrl> + <Alt> +<Delete> キーを押して再起動させます。
- 2 POST が進み、画面に以下のメッセージが出たタイミングで<F10> キーを押します。
[F9] System Utilities [F10] EXPRESSBUILDER [F11] Boot Menu [F12] Network Boot
- 3 表示されたメニューから「Provisioning」を選択します。
- 4 初回起動時は、「FIRST TIME SET UP WIZARD」が現れます。
「4. FIRST TIME SET UP WIZARD」を参照してください。
- 5 EXPRESSBUILDER のホーム画面が現れます。
「5. EXPRESSBUILDER メニュー画面」を参照してください。

4. FIRST TIME SET UP WIZARD

「FIRST TIME SET UP WIZARD」は、EXPRESSBUILDER の動作環境を設定するウィザードです。初回起動時に自動的に表示されるほか、「メンテナンスの実行」の「システムの消去およびリセット」で設定を消去後、再表示させることができます。

ウィザードを開始するときは、画面上の「FIRST TIME SET UP WIZARD」ボタンをクリックしてください。



ウィザードは複数のページで構成され、以下のような設定ができます。

項目	デフォルト	説明
ページ 1		
インターフェイス言語	English (US)	ご使用のサーバーに適した表示言語を選択します。
キーボード言語	English (US)	ご使用のサーバーに適したキーボード言語を選択します。
タイムゾーン	UTC-00:00, グリニッジ標準時	Windows をインストールする場合、この設定はデフォルト(グリニッジ標準時)から変更しないでください。
システムブートモード	UEFI 最適化ブート	UEFI 最適化ブートから変更しないでください。
ページ 2		
EULA を読む	–	エンドユーザーライセンス(EULA)を確認し、チェックボックスをチェックして次に進みます。
ページ 3		
このサーバーをどのように使用しますか？	一般的なワークロード	デフォルトの「一般的なワークロード」を指定します。
F10 機能を有効	オン	デフォルトの「オン」状態のままにします。オフにすると POST から EXPRESSBUILDER を起動できません。
このシステムへのソフトウェアおよびファームウェアアップデートの自動適用を有効にする	オフ	デフォルトの「オフ」状態のままにします。アップデート用の Web サイトは現在準備中で利用できません。

ページ 4

ネットワーク設定	DHCP の自動構成	デフォルトのままにします。ここで設定した値は、アップデート用 Web サイトへのアクセスに使用しますが、Web サイトは現在準備中で利用できません。
iLO ネットワークの設定	(iLO ネットワークの現在設定値)	iLO のネットワークの状態に合わせて設定します。
システムソフトウェア更新	NEC Web サイトからアップデート	デフォルトの「NEC Web サイトからアップデート」を指定します。ファームウェアアップデート機能を無効にしているときは無視されます。

5. EXPRESSBUILDER メニュー画面

EXPRESSBUILDER が起動すると、ホーム画面が現れます。



アイコンの説明

ホーム画面右上のアイコンは、以下のような機能を持ちます。

項目	説明
環境設定	表示言語を変更できます。
ホーム	ホーム画面に戻ります。
ジョブ構成	インストール、展開設定等で作成したジョブを管理します。
ヘルプ	ヘルプを参照します
情報	システム情報を表示します
シャットダウン	サーバーをシャットダウンします

メニューの説明

(1) 構成とインストール

OS のインストールができます。詳細は、「6. OS インストール例」を参照してください。

(2) メンテナンスの実行

各種メンテナンス用ツールを個別起動できます。詳細は「7. メンテナンスの実行」を参照してください。

6. OS インストール例

EXPRESSBUILDER を使用した OS の使用例について説明します。

Step 1 準備

Starter Pack DVD を用意します。DVD は UL 製品で購入するか、以下のサイトからダウンロードします。

<http://jpn.nec.com/>

(「サポート・ダウンロード」-「ドライバ・ソフトウェア」-「PC サーバ/ブレードサーバ(Express5800 シリーズ)」から対象モデルの「OS 関連」を選択)

また、製品マニュアルも同サイトに掲載しています。あらかじめインストールガイドなどをダウンロードしてください。

Step 2 初期設定

POST から EXPRESSBUILDER を起動し、「FIRST TIME SET UP WIZARD」で動作環境を設定します。

「4. FIRST TIME SET UP WIZARD」を参照してください。

Step 3 RAID の設定

DAC 構成の場合、あらかじめ RAID を構成します。

ホーム画面の「メンテナンスの実行」から「RAID 構成」を選択し、RAID を構成してください。

Step 4 OS の設定

EXPRESSBUILDER のホーム画面に戻り、「構成とインストール」を選択します。また、インストールしようとする OS メディアをセットしておきます。

設定値の例は以下のようになります。各ページで設定が完了したときは、右下のアイコン(">")をクリックして次ページに進みます。

項目	デフォルト	説明
ページ 1		
RAID 構成	推奨された設定	Step 3 で RAID 設定した場合は、「現在の設定の維持」に設定します。 「推奨された設定」の場合、サーバーに接続されたすべての RAID およびデータを削除して再構成します。外付けディスクなどで、データの保持が必要なときは選択しないでください。
コントローラー	(最初に検出した DAC)	インストール先の DAC を選択します。
ディスク	(最初に検出したディスク)	インストール先のディスクを選択します。
ソースのインストール	DVD-ROM メディア	OS をインストールするソースのメディアタイプを選択します。DVD のほか、ネットワークドライブおよび USB メモリ上の OS ソースからインストールできます。
ファームウェアアップデートの試行	更新のスキップ	アップデートサイトは準備中です。「更新のスキップ」から変更しないでください。
インストール方法	Assisted Install	「Assisted Install」を選択すると、より簡単にインストールを進めることができます。

ページ 2		
OS ファミリの選択	(OS メディアに依存)	認識した OS メディアに応じ、OS ファミリを選択できます。
OS 言語	(表示言語に依存)	OS のロケール(地域の設定)を選択します。
OS キーボード	(キーボード言語に依存)	OS で使用するキーボードの言語を選択します。
タイムゾーン	(動作環境に依存)	「(GMT)グリニッジ標準時」を設定します。タイムゾーンの設定は OS インストール後に OS の機能を使用し、改めて実施してください。
コンピューター名	(自動生成)	必要に応じて設定してください。
組織名	-	必要に応じて設定してください。
所有者名	-	必要に応じて設定してください。
パスワード(オプション)	-	必要に応じて設定してください。パスワードは、英大小文字および数字の 3 種で設定します。「!」等の記号は入力できません。
パスワードの確認	-	「パスワード(オプション)」と一致させてください。

Step 5 インストールの開始

設定に問題ないときは、右下のアイコン(">")をクリックして次ページに進みます。

「ジョブ構成ビューアー」まで進み、「すぐに起動」をクリックしてください。インストールが始まります。

サーバーが自動的に再起動したりしますが、何も操作せず、そのままお待ちください。

Step 6 OS ライセンスの確認

インストールが進むと、OS ライセンスの確認画面になります。内容に同意して次に進むと、再びインストールが自動で進みます。

何も操作せず、そのままお待ちください。

Step 7 パスワード入力、OS サインイン

インストールが進むと、Step 4 でパスワードの設定をしていない場合、パスワード設定画面になります。適切なパスワードを設定してください。その後、OS サインインの画面になります。設定したパスワードを入力し、サインインしてください。

サインインが完了すると、再びインストールが自動で進みます。何も操作せず、そのままお待ちください。

Step 8 Starter Pack の適用

インストールが進むと自動的に再起動し、再びサインインの画面になります。パスワードを入力し、サインインしてください。

サインイン後、Step 1 で準備した DVD をセットし、ルート下の¥start_up.bat を実行します。

起動したメニューから「統合インストール」を選択し、「Standard Program Package」を選択してインストールします。

Step 9 ドライバーその他の設定

Step 1 で準備したインストレーションガイドを参照し、必要に応じてドライバーその他の OS 設定を実施します。

Step 10 バンドルソフトウェアのインストール

Step 8 と同様に DVD のメニューを起動した後、「統合インストール」を選択し、必要なアプリケーションを選択してインストールします。

7. メンテナンスの実行

EXPRESSBUILDER は、いくつかのメンテナンス用の機能呼び出すことができます。

(1) EXPRESSBUILDER 環境設定

4 項記載の FIRST TIME SET UP WIZARD と同等の設定ができます。
動作環境を再設定したい場合などで選択します。

(2) Active Health System ダウンロード

外部メディア等へ、故障時の解析などで使用する AHS ログを保存できます。
サーバーに不具合があったとき、保守員が利用するコマンドです。

(3) 展開設定

サーバーのインストール設定を他のサーバーへ展開する機能です。手順の詳細については別途公開予定です。

(4) クイック構成

RBSU と同等な BIOS の設定機能です。

(5) iLO の構成

iLO web インターフェースと同等な iLO 設定機能です。

(6) システムの消去およびリセット

「すべてのハードディスクドライブ」を選択すると、サーバーに接続されたすべての HDD のデータを削除します。
「ハードドライブのワイプ」を選択すると、サーバーに接続されたすべての HDD のすべての領域に対し、数回のランダムパターンを上書きします。HDD の容量によっては数日かかる場合もあります。このオプションは、サーバー廃棄時に個人情報などの重要データを削除する場合などで使用します。
「EXPRESSBUILDER 環境設定」を選択すると、「4. FIRST TIME SET UP WIZARD」で設定した EXPRESSBUILDER の動作環境を初期化します。

(7) RAID 構成

DAC および RAID を設定する GUI ツールです。

8. バージョン 7 とのおもな差分

バージョン 8 は、バージョン 7 と比べ、おもに以下について変更があります。

(1) ドライバー(Starter Pack)格納方針

バージョン 7 は、ドライバーを含む Starter Pack は EXPRESSBUILDER 内に含まれていますが、バージョン 8 では Starter Pack を含んでいません。

(2) バンドルソフトウェア格納方針

(1)と同様、バージョン 8 では、EXPRESSBUILDER 内にバンドルソフトウェアを格納していません。そのため、EXPRESSBUILDER から OS インストールしたとき、バンドルソフトウェアは同時にインストールされません。バンドルソフトウェアは Starter Pack に包含するよう変更されました。

(3) RAID 構築

バージョン 7 は、セットアップウィザード内で簡易な RAID 設定機能を含んでいますが、バージョン 8 では個別の項目として独立し、設定できる内容も豊富になっています。

(4) 起動メディア

バージョン 7 は、内蔵フラッシュメモリ版とともに DVD 版を提供していましたが、バージョン 8 では DVD 版はありません。Starter Pack DVD に EXPRESSBUILDER は格納されておらず、OS インストール機能はありません。

(5) コマンドラインインターフェース

バージョン 7 で提供した EXPRESSBUILDER コマンドラインインターフェースは、バージョン 8 では提供していません。

(6) OS 設定値

インストール時に設定できる OS 設定を全般的に見直しました。

付録. EXPRESSBUILDER の使用例(バージョン 7)

EXPRESSBUILDER バージョン 7 を使ってサーバーをセットアップしたときの例について説明します。

ここでは、以下の条件でセットアップすることを想定します。

使用する EXPRESSBUILDER	: Version 7.10-001.01
対象マシン	: Express5800/GT110f-S
ハードディスクドライブ	: SATA HDD (500GB) 2 台
RAID コントローラー	: 内蔵(LSI Embedded MegaRAID)
RAID 構成	: RAID1 (ホットスペアなし)
論理ドライブ構成	: 1 台め=100GB 、 2 台め=残り全領域
インストール OS	: Windows Server 2012
インストール先パーティション	: 1 台めの全領域(100GB)
インストール方法	: カスタム、EXPRESSBUILDER を使う

Step1 EXPRESSBUILDER の起動

- (1) サーバーの電源を ON にし、光ディスクドライブへ EXPRESSBUILDER をセットします。
- (2) <Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押してサーバーを再起動し、EXPRESSBUILDER を起動させます。
- (3) ブートメニューから、[OS installation]を選択します。
- (4) 言語の選択画面から、[日本語]を選択します。
しばらくすると、「ホームメニュー」が起動します。

Step2 セットアップ開始、OS の選択

- (1) ホームメニューで、[セットアップ]をクリックします。



(2) 次の画面では、[自動認識]をクリックします。以降、画面の指示に従い、Windows Server 2012 の「バックアップ DVD-ROM」をセットします。



(3) 認識が成功すると、以下のようなメッセージが現れます。[閉じる]をクリックしてください。



(4) アイコンをクリックして Step2 へ進みます。

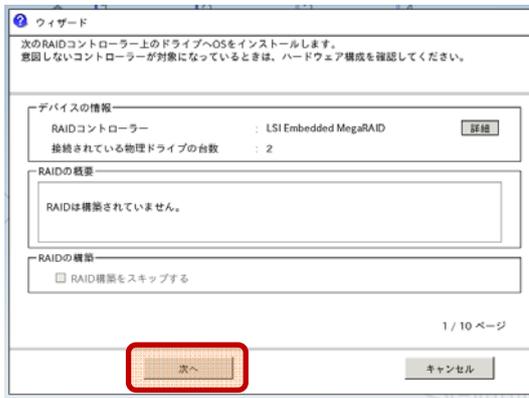


Step3 設定の入力

(1) [カスタム]をクリックします。



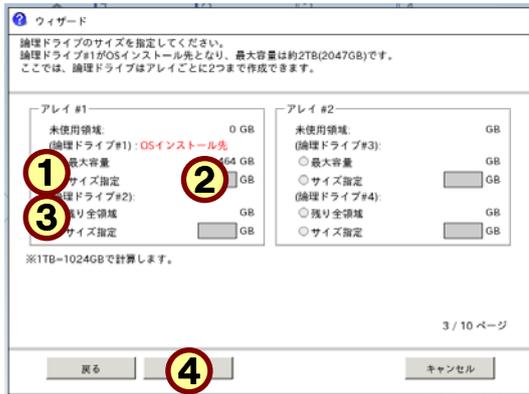
(2) [RAID の構築をスキップする]にチェックが入っていないことを確認し、[次へ]をクリックします。



(3) アレイ#1 に HDD が 2 台参加し、RAID レベルが RAID1 であることを確認し、[次へ]をクリックします。

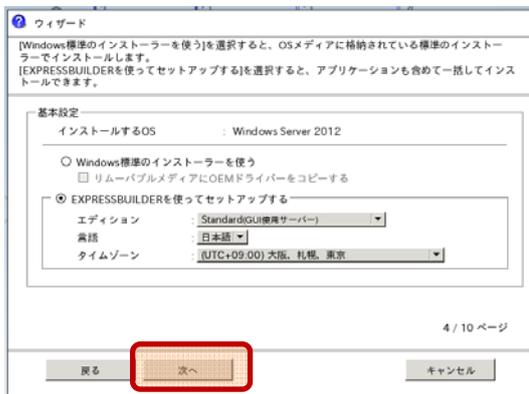


(4) 次の画面では、今回の条件(1 台め=100GB 、 2 台め=残り全領域)に合致するよう、以下の手順で設定します。

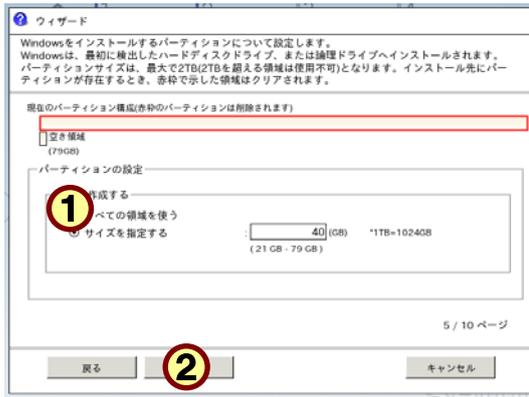


- ① 論理ドライブ#1 の[サイズ指定]をチェックします。
- ② テキストボックスへ 100 を入力します。
- ③ 論理ドライブ#2 の[残り全領域]をチェックします。
- ④ [次へ]をクリックします。

(5) [次へ]をクリックして次に進みます。

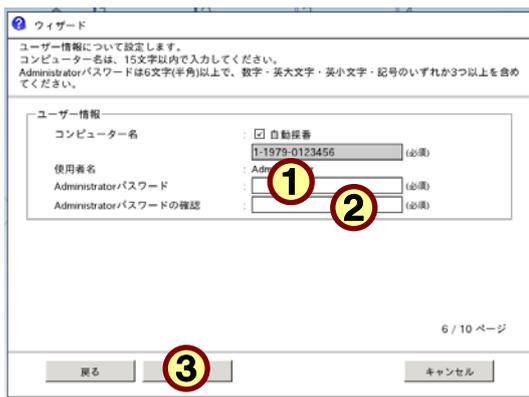


(6) 次の画面では、今回の条件(1 台めの全領域)に合致するよう、以下の手順で設定します。



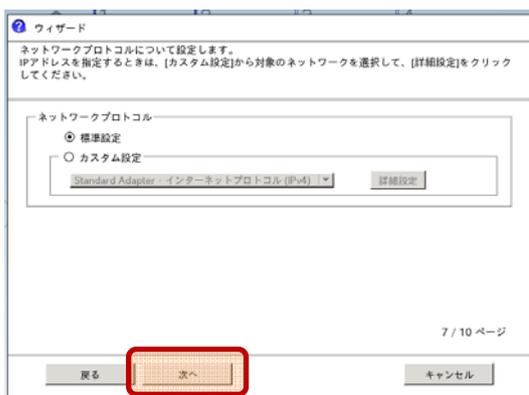
- ① [すべての領域を使う]をチェックします。
- ② [次へ]をクリックします。

(7) 次の画面では、以下の手順でパスワードを設定します。



- ① [Administrator パスワード]へパスワードを入力します。
- ② [Administrator パスワードの確認]へ①で入力したパスワードを再度入力します。
- ③ [次へ]をクリックします。

(8) [次へ]をクリックして次に進みます。



(9) [次へ]をクリックして次に進みます。

ウィザード

参加するネットワークを指定します。
ワークグループまたはドメインのいずれかを選択し、各項目を入力してください。

ワークグループに参加する
ワークグループ名 : WORKGROUP

ドメインに参加する
ドメイン名 :
アカウント名 :
パスワード :
パスワードの確認 :

8 / 10 ページ

戻る 次へ キャンセル

(10) [次へ]をクリックして次に進みます。

ウィザード

Windows コンポーネントについて設定します。
有効化する Windows の機能とサーバーの役割を選択してください。

サーバーの役割

Webサーバー(IIS) 印刷とドキュメントサービス
 DHCPサーバー ファイルサービス
 DNSサーバー Hyper-V

Windows の機能

SNMPサービス
 簡易TCP/IPサービス
 WINSサーバー

9 / 10 ページ

戻る 次へ キャンセル

(11) [完了]をクリックしてウィザードを終了します。

ウィザード

インストールするアプリケーションを選択してください。
各アプリケーションについては、[アプリケーションの説明]を参照してください。

追加可能なアプリケーション

追加アプリケーションのインストール

追加>>
<<削除

選択されたアプリケーション

ESMPRO/ServerAgent
エクスペレス 遠隔サービス
エクスペレス 遠隔サービス(HTTPS)
Universal RAID Utility
Microsoft .NET Framework Version 3.5.1
ExpressUpdate Agent

アプリケーションの説明

10 / 10 ページ

戻る 完了 キャンセル

(12) アイコンをクリックして Step3 へ進みます。



Step4 設定の確認とセットアップの実行

(1) 設定した内容が正しいか確認した後、アイコンをクリックして Step4 へ進みます。



(2) [開始]をクリックすると、セットアップが始まります。



セットアップが自動的に進みます。そのまま少しお待ちください（1分程度）。

(3) メッセージに従い、EXPRESSBUILDER DVD をドライブにセットして[OK]をクリックします。

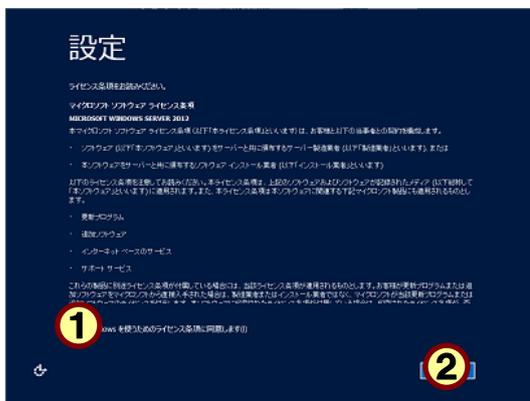
そのまま少しお待ちください（2～3分程度）。

(4) メッセージに従い、Windows Server 2012 の「バックアップ DVD-ROM」をセットして[OK]をクリックします。

以降、セットアップが自動的に進みます。何回か再起動し、画面に何も映らないことがありますが、**何も操作をせず、そのまましばらくお待ちください**（40～50分程度）。

Step5 Windows へのサインイン

(1) セットアップが進むと、次の画面で停止します。



① [Windows を使うためのライセンス条項に同意します]をチェックします。

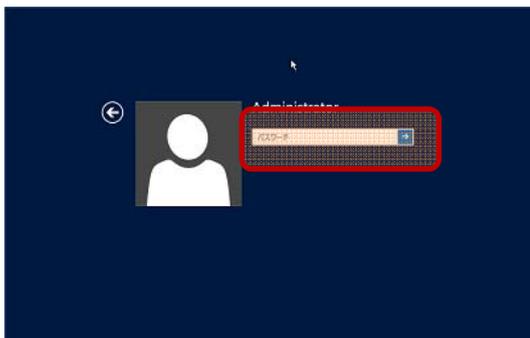
② [同意する]をクリックします。

(2) <Ctrl> + <Alt> + キーを押します。



(3) 次の画面では、テキストボックスへ10ページ(7)で設定したパスワードを入力し、<Enter>キーを押します。

サインイン処理が進みますので、そのまま少しお待ちください（1分程度）。



- (4) セットアップが完了すると、次のような画面が現れます。
[OK]をクリックしてください。



以上で、EXPRESSBUILDER を使ったセットアップは完了です。